

お浄土は故郷

じょうど ふるさと

あけまして おめでどう

ごごいます

去年は、世界中で紛争が続ぎ、感染症の流行、地球温暖化の加速、さらに物価高騰が続ぎ、生活は厳しさを増しています。

さて、旧暦の一月二十五

日は、浄土宗の宗祖であり、親鸞聖人の師である法然上人が入寂された日です。法然上人が病床に就かれたのは、その年の正月二

日でありましたが、その時、弟子が上人に「極楽往生

は確実ですか」と尋ねました。

よくもまあ、そんな無礼な質問をしたと思います。法然

上人は、怒ることなく「我

もと居せしところなれば、さ

だめて極楽へ帰り行くべし」と

と答えられました。この意味

は、——わたしはもともと極

楽浄土に居たのだから、きつ

とその故郷のお浄土へ帰っ

て行くだろう——というこ

とです。この言葉のうちに、

法然上人の念仏の理論があ

らわれていると思います。私

たちの故郷はほとけの国であ

るお浄土であり、すなわちほとけの子であると法然上人はそう考えておられたのでしよう。

親鸞聖人は「なごりをし

くおもへども娑婆の縁尽きて

ちからなくしてをはるときに

かの土へはまいるべきなり」と

言われました。誰もがこの

世を離れたくない思いがあっ

ても必ず命が終わる時が

きます。しかし阿弥陀様が

つとご一緒してください

ずお浄土に連れて帰ると

「南無阿弥陀仏」のはたらき

となり絶えず呼び続けてくだ

さっておられます。浄土

真宗では昔から阿弥陀様

を親さまと言われてきました。親がいる場所というのは私

たちにとって故郷ではないでしようか。

だとするならば「南無

阿弥陀仏」のお念仏は故郷に

おられる私たちの親である

阿弥陀様がかけ続けてくださ

る電話だと思えます。その

電話を受け取った時「元気で

やっています」とか「悲しい

よ」とか報告させて頂く時

自然とお念仏が口からでてく

だることです。それからたま

に電話を取り忘れても阿弥陀

様は怒ることはありません。

だからこそ、おりにふれては

「南無阿弥陀仏」とかけ直す

ようにしたいものです。